

Yamagata 山形での仕事と暮らし
ロールモデル集

Role model collection



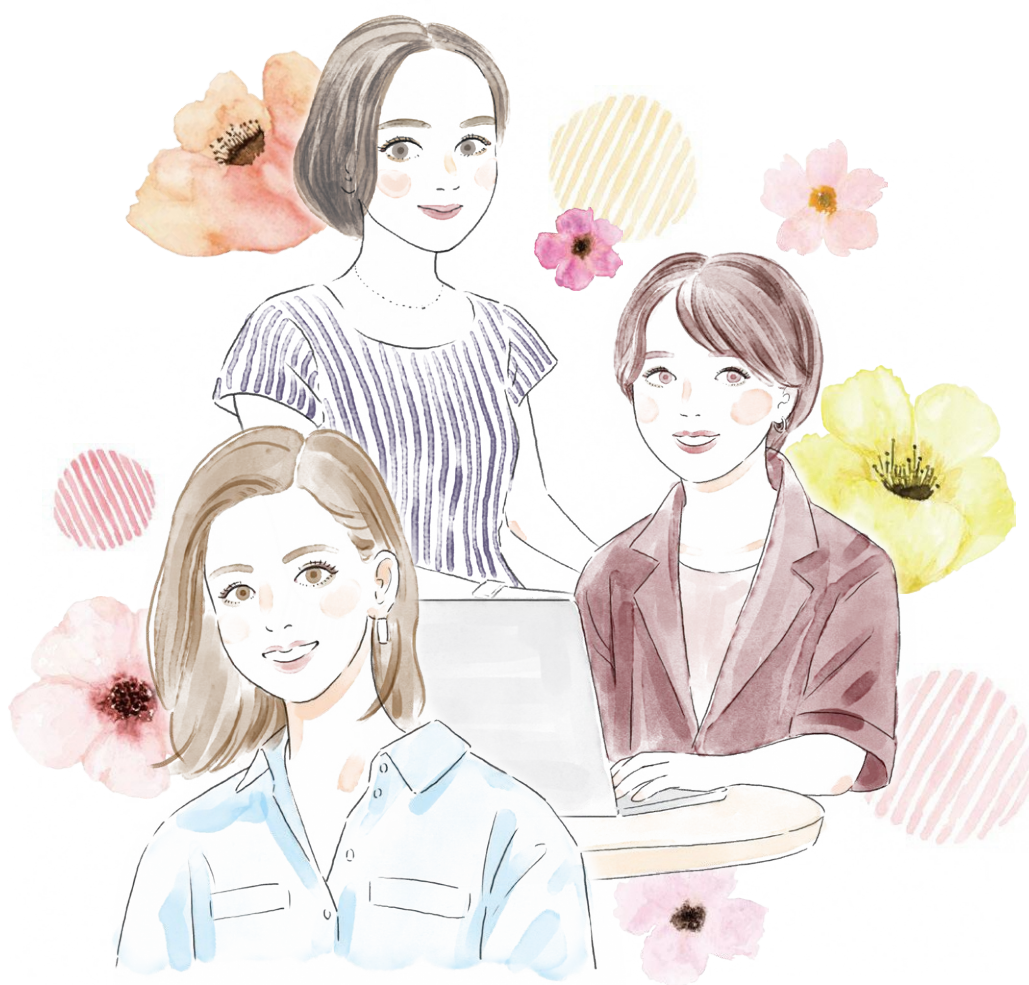
やまがたでの
働き方は?暮らし方は?

やまがたの女性のリアルを
データでチェック

「オンライン100人女子会」
を開催しました!

インタビュアーが
取材で見つけた“気づき”





私らしく、暮らす、働く、山形で。

「少し先の”未来”を考えるヒントとなるような、先輩女性の暮らし方、働き方が知りたい」
オンライン100人女子会での声から、この「Yamagata *Role model* collection」は生まれました。

この冊子では、山形で暮らし、働く18人の女性のライフスタイルを紹介しています。

仕事やプライベートについて気になることを、

県内の大学生や山形出身・在住の社会人の皆さんがインタビュアーとなって、

率直に聞いてみました。


山形で自分らしく輝くためのヒントを見つけてください！

COLUMN


04 女性の視点から見る山形県


06 「オンライン100人女子会」を開催しました！


ROLE MODEL


10  1 現場で大事にしているのは「共有」すること
安彦 陽子さん（沼田建設株式会社）


11  2 『私らしく』農業を楽しんでいます
梅津 悠さん（農業）


12  3 子どもたちの笑顔と成長を見守り続けたい
柿崎 彩佳さん
（有限会社スエヒロ 放課後等デイサービス「みんなのそら にじ」）


13  4 「好き」が原動力！地元で目指す“理想の姿”
齋藤 たまきさん（株式会社花泉）


14  5 大好きな地元で困っている人に寄り添う
齋藤 知美さん（齋藤知美司法書士事務所）


15  6 自分の思いもスキルも活かせる仕事が見つかる
齋藤 萌さん（山形市農業協同組合）


16  7 子育ても一生懸命、夢にも一生懸命。
佐藤 涼子さん（鶴岡スペースステーション）


17  8 その時々で優先することを前向きに選択する
鈴木 友紀さん
（AGCディスプレイグラス米沢株式会社）


18  9 1つ1つの仕事に丁寧に向き合い、信頼とキャリアを築く
鈴木 優美さん（山形朝日株式会社）


19  10 伝統野菜の魅力発信へ、ポジティブにチャレンジ
須田 千晴さん（株式会社マルハチ）


20  11 前の世代の想いを次世代につないで、恩返ししたい
高橋 千夏さん（アルス株式会社）


21  12 努力を積み重ね、日本料理の魅力を伝えたい
高山 未緒さん
（加茂水族館 城下町鶴岡 浜の台所 魚匠ダイニング沖海月）


22  13 地元の山形から、世界に発信していきたい！
富樫 周子さん（東北パイオニア株式会社）

23  14 学べる機会を活かして、キャリアアップ
野口 恵美さん
（リコージャパン株式会社 山形支社）

24  15 ワクワクを創造し、世界を楽しむ
芳賀 温子さん（合同会社 GLAMPIC）

25  16 仕事と走り地元で恩返ししたい
本間 未来さん（カーブスMORI 東根）

26  17 好きな研究が続けられる環境は、鶴岡にあった！
松田 りらさん
（ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社）

27  18 山形で実現“自分らしい”暮らし
ラーワー ちひろさん（絵本作家）

BONUS TRACK

28 インタビュアー『編集後記』



女性からの視点から見る山形県



山形の女性

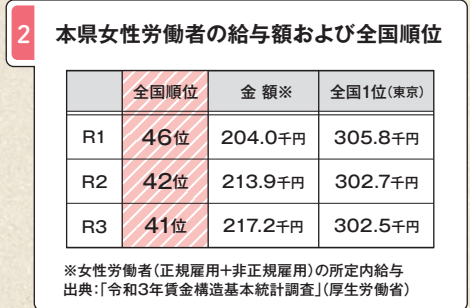
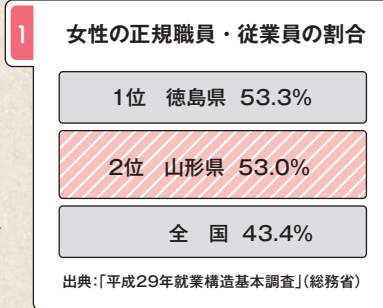
仕事



雇用



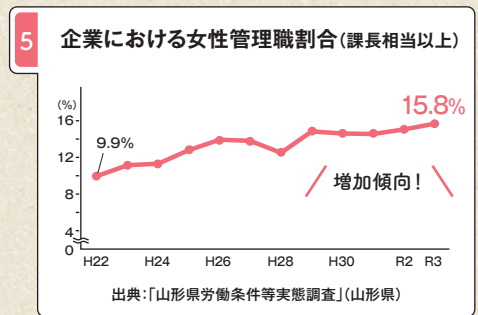
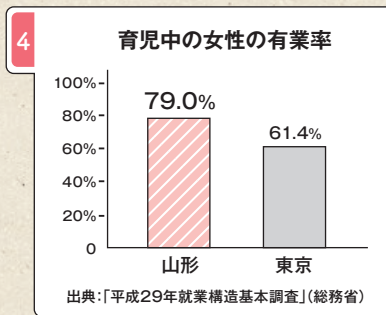
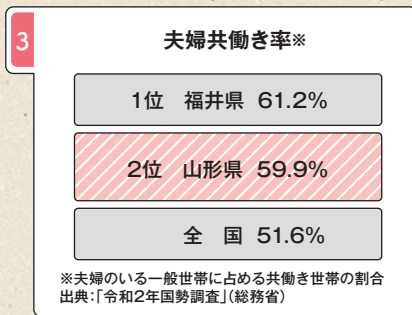
山形の働く女性は、正規雇用割合が全国2位(図①)と高い一方で、給与額は全国的に低い水準(図②)にあります。



働き方



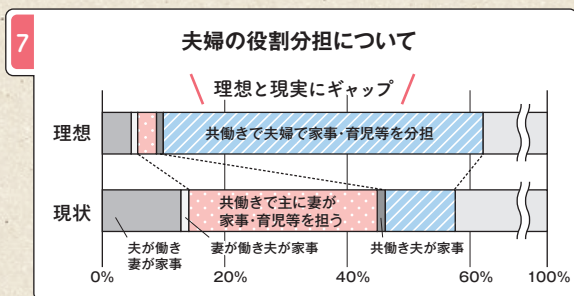
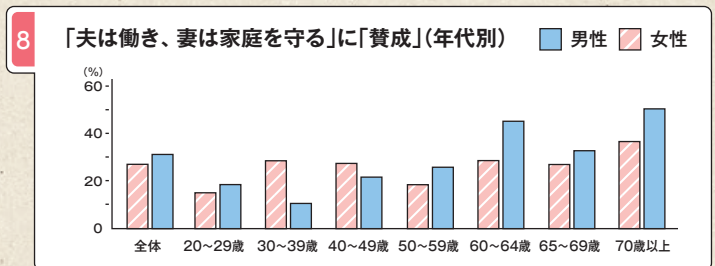
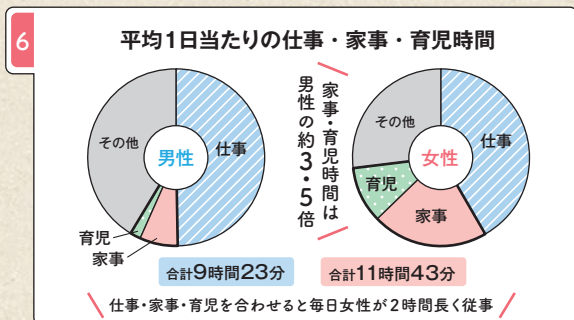
共働き率は全国2位(図③)であり、子育てしながら働く女性の割合が高くなっています(図④)。また、女性の管理職割合は年々上昇傾向(図⑤)にあり、指導的地位で活躍する女性の割合が増えています。



役割負担



家事・育児等の負担が女性に偏在(図⑥)し、「男性は仕事、女性は家庭も仕事」といった現状が伺えます(図⑦)。「夫は仕事、妻は家庭」といった性別による固定的な役割分担意識は、年齢が下がるにつれて解消されている傾向(図⑧)にあるものの、依然として存在しています。



6~8出典:「令和元年度ワーク・ライフ・バランス、男女共同参画及び女性活躍に関する県民意識・企業実態調査」(山形県)

アンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み)とは

日本語での意味は「無意識の思い込み・決めつけ」のことで、事例として「組織のリーダーは男性の方が向いている」「家事・育児は女性の仕事だ」などが挙げられています。個々人がもっているアンコンシャス・バイアスは誰にでもあり、そのもの自体が問題ではありません。これに気づかずにいることで相手を傷つけたり、可能性を狭めてしまう場合があります。また社会全体では、老若男女の多様な視点が反映されづらくなったり、女性の活躍の場が限定されたりしますので、活力ある社会を維持するためにも、みんなで気をつける必要があります。



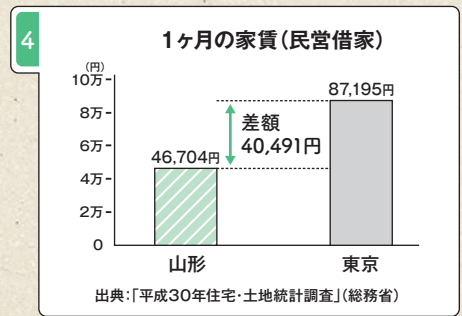
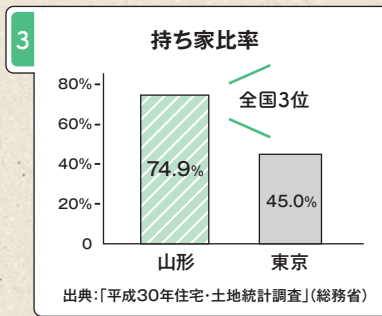
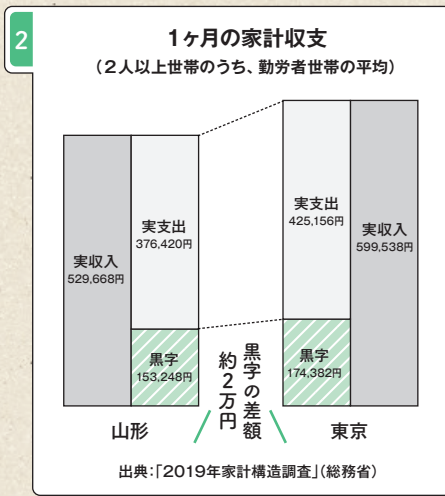
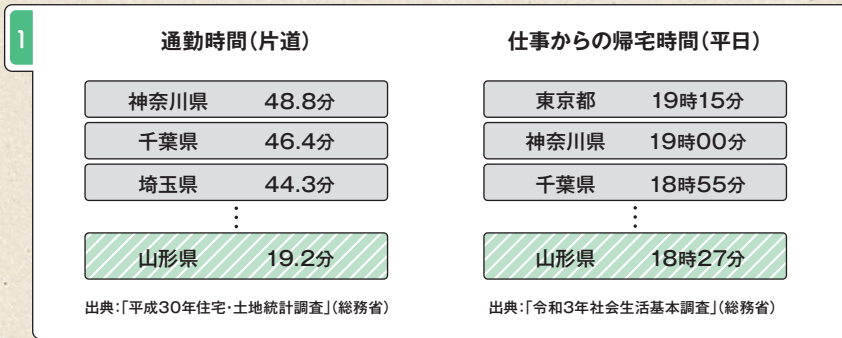
暮らし

1

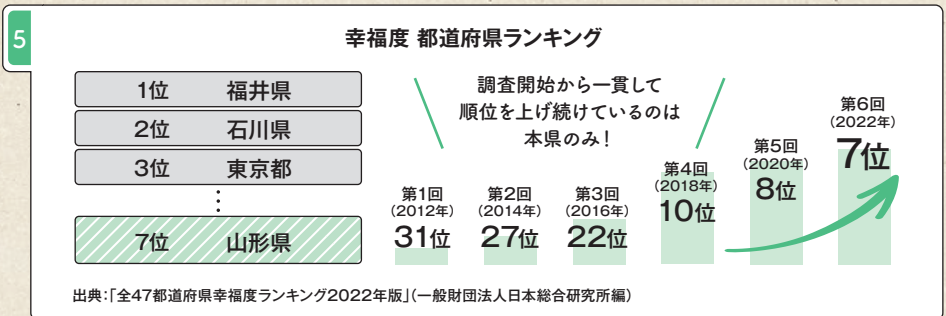
山形での暮らしは、通勤時間が短く帰宅時間が早い(図①)ことから、自分の時間や家族との時間を確保しやすいと言えるかもしれません。

山形の女性

暮らし



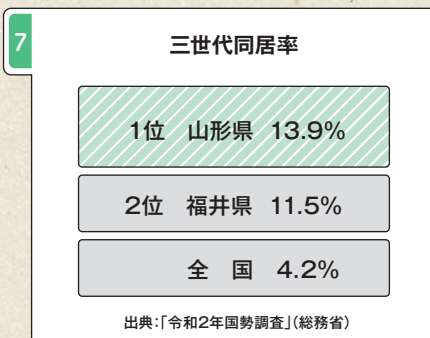
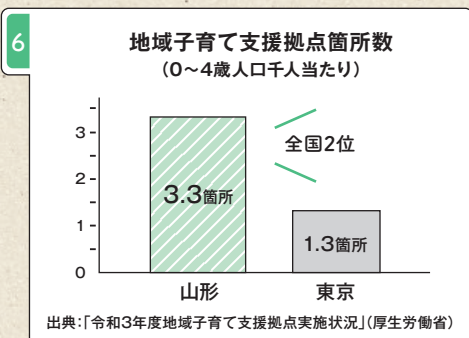
東京都と比べ、家計の黒字額は約2万円低くなっていますが(図②)、持ち家を持ちやすく(図③)、借家の家賃も安価となっています(図④)。



子育て

2

待機児童2年連続ゼロ(R2,R3)や子育て施設の多さ等(図⑥)、子育て環境も充実しています。



「オンライン100人女子会」 を開催しました！



近年、若者、特に女性の県外転出超過者数は男性の1.5倍と顕著になっています。

山形県では令和3～4年度に、若年女性の県内定着、県内回帰を促進するため、若年女性を取り巻く現状や課題を把握すべく、当事者である若年女性に多数ご参加いただき、互いに山形での暮らしや仕事について本音で意見交換を行う「オンライン100人女子会」を開催しました。

令和4年度の開催結果についてご紹介しますので、誰もが働きやすい、暮らしやすい山形県に向けて、身近なことからはじめるヒントにいただければ幸いです。



オンライン開催 (zoom)

山形で幸せに暮らしたい
働きたい！

山形の
ここがステキ！

みんなは
どう
感じてる？

こんなところ
もステキ...

オンライン 100人女子会

～わたしと山形の未来について～

参加無料

オンライン100人女子会は、様々な立場の同世代の女性が「仕事・家庭・地域」をテーマにオンラインを語り合うオンラインイベントです。女性どうしてお話しながら、「ありたい自分」「理想の自分」をスタートするヒントを見つけませんか？

申込締切 9/25

日時
日程1 9/28(水) 13:30～16:00 (zoom講座は13:15から)
日程2 10/1(土) 9:30～12:00 (zoom講座は9:15から)
※両日とも開催内容は同じです。

申し込み方法
ホームページの申込フォームから送信いただくか、郵送の参加申込書に記載しFAXか郵送でお申し込みください。
ホームページ: <https://yamagata-w.jp/josikai/>

お問い合わせ
山形放送イノベーション事業部「オンライン100人女子会」事務局
山形県山形市南東町丁部1-12 内023-664-0190 (平日9:30～18:00)

主催/山形県しあわせ子育て応援部 女性・若者活躍推進課

お申込みは
復讐へ！

主なプログラム

zoom講座 (希望者のみ) zoomなどオンラインツールの使い方を説明します。お気軽にご参加ください。

第1部 全体セッション
アイスブレイク&ミニセミナー
「わたしたちを取り巻く山形のリアルとポジティブチェンジのためのリフレーミング」

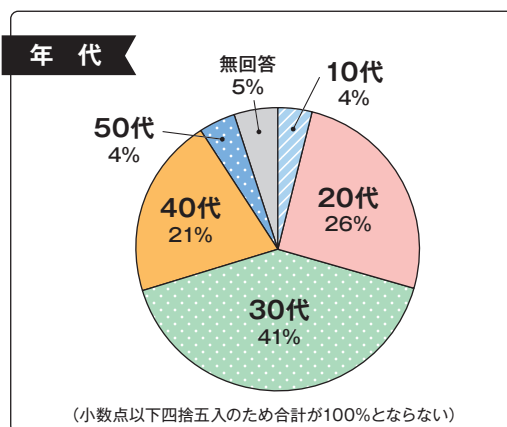
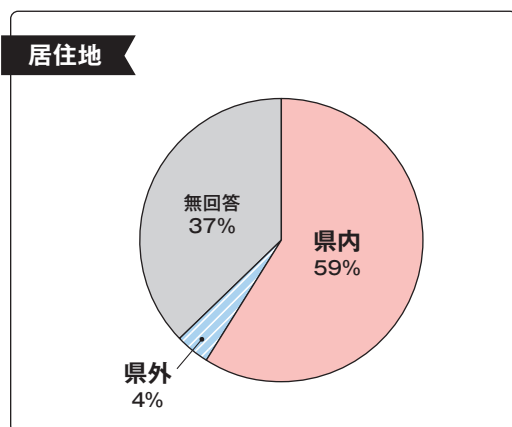
第2部 グループトークセッション
「ホッと語る山形の暮らし」
少人数に分かれ、仕事・家庭・地域テーマ別にグループトーク。各グループにファシリテーターを配置。安心して話していただけます！

第3部 全体セッション
グループトークの振り返りと全体共有
「明日からのわたし」

アフタートークセッション (希望者のみ) 終了後も講師や参加者と話し合いできなかったことを自由にトークしていただけます！

オンライン100人女子会の概要

- 開催日時： 令和4年9月28日(水) 13:30～16:00
令和4年10月1日(土) 9:30～12:00 (2回とも開催内容は同じ)
- 開催内容： オンライン100人女子会～わたしと山形の未来について～
- 参加者： 学生を含む県内外の若年女性101名
- 参加者属性：

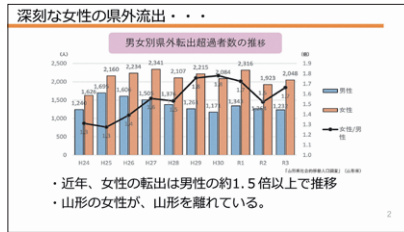


Program
1

アイスブレイク&ミニセミナー

「わたしたちを取り巻く山形のリアルとポジティブチェンジのためのリフレーミング」

アイスブレイクでは、グループトークの参考となるような、山形県の女性を取り巻く状況について、データとエビデンスを見て共有しました。ミニセミナーでは、日々感じるモヤモヤに対し、「リフレーミング」の手法を使ってポジティブになれるヒントを学びました。



Program
2

グループトークセッション

「ホンネで語る山形の暮らし」（「仕事」「家庭」「地域」をテーマにグループトーク）

グループトークでは、仕事、家庭、地域の3テーマについて参加者全員が5人程度のグループに分かれ、本音を自由に話し合いました。意見交換は次の順序で進め、前向きな意見が多く聞かれました。

1. 山形県の素晴らしいところを洗い出す(山形のどのようなところが素晴らしいか?)
2. 山形県の課題を洗い出す(山形がもっと魅力的な県になるために何が必要か?)
3. 山形県に期待すること(私たちはどんな山形を理想としているか?)



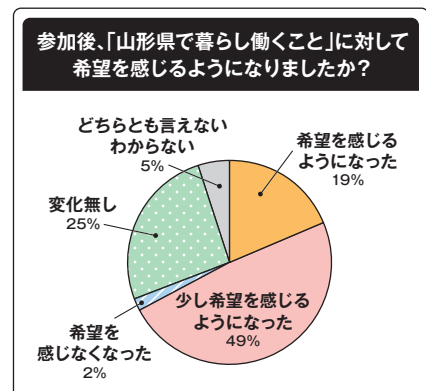
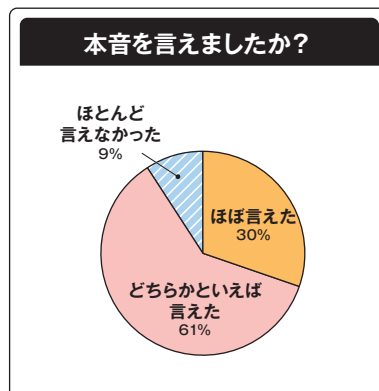
コーディネーター：
高橋理里子さん/ミライズ株式会社専務取締役

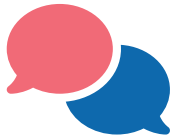
Program
3

グループトークの振り返りと全体共有

「明日からのわたし」

各グループで話したことを軸に、リフレーミングの手法を使って「女性も幸せに暮らし働ける山形県」のために、「私たち女性」ができること、目指したいこと、企業や行政に望むことを未来志向で話し、参加者全員で共有しました。





「オンライン100人女子会」参加者の声

+ プラス意見

- マイナス意見

Worklife

仕事や働き方について

山形で働くことについて

- + 共働きが多いので女性が働くこと、働き続けることへの理解がある企業が多い。
- + 男性の育児休業取得者が出てきており、職場として父親のワークライフバランスを後押しする動きがある。
- + 小規模な企業が多いので、様々な業務を経験できる。
- 賃金が低くそもそも共働きをしないと生活が大変であり、女性が産育休中に男性も育児休業を取得するのは金銭的に厳しい。
- 正社員になれずに苦労している。
- 職種の選択肢が少ない。

女性活躍について

- + 女性の管理職が出てきている。
- + 都会と比べると待機児童が少ない(関東圏は入所希望が第11希望まで申請も)。
- 女性の役職者が少なく、ロールモデルとなるような上司が少ないため、キャリアプランを描きにくい。
- お茶当番、電話取りなど女性だからといった固定観念による役割分担がある。
- 都会は育児・家事や仕事に関して男女平等だが、山形では子どもが病気になれば母親が仕事を休んで看病するのが当然など、家事育児の役割が女性に偏っている雰囲気がある。
- 共働きが多いのに、家事や育児など女性への負担が大きい。
- 「子どもは祖父母に預けるのが当たり前」という多世代同居前提の話がされるのがつらい。

Home & Parenting

家庭や子育てについて

子育て・教育環境について

- + 両親が近くに住んでいるので子育てを頼みやすい。
- + 都会と比べるとファミリーサポートが利用しやすい(都会は混んでいる)。
- + 屋内遊戯施設が充実している。
- + 雪で遊べる。
- 祖父母が子どもの面倒をみるのが当たり前という意識があるので、祖父母に頼れない人たちの肩身が狭い。核家族に優しくない。
- 三世帯同居、近居など子どもを両親に見てもらえる人が多いからこそ、民間が参入しない(塾の送迎タクシーや、子どもの受診代行サービスなどが普及しない)。
- 遊戯施設の対象年齢が小学校低学年まで等で、子育て施策が小さい子どもだけの目線になっている。小中学生が遊べる施設がほしい。

男性の家事・育児への参画について

- + 男性の育児休業が普及してきている。
- 無意識の固定観念があり、暗黙のうちに子育てや家事の負担が女性に偏在。
- 山形県から出たことのない男性は子育てのトレンドに疎い(家事の役割分担、子育てを自分ごとに考えることができない)。

山形での暮らしについて

- + 自然の豊かさや旬を感じられる食の豊かさは魅力。
- + 親の具合が悪い時にすぐに駆け付けられることができる。
- どこに行くにも車が必要、バスの本数が少ない、新幹線が遅い。
- 雪を知らない人には、冬場は不便だし怖く感じる、山形に住むことを躊躇してしまう。
- 移住者向けのサポート情報がわからない(情報を入手しづらい)。
- 結婚=同居という古い価値観、収入が少なくやむなく親と同居。

地域の価値観について

- + 「新しいことをしよう、若者の声を聞こう」という雰囲気を感じる。
- + 地域を盛り上げる人が増えてきていて、エネルギーを感じる。
- 自治会など地域のリーダーは男性になってもらった方が丸く収まる雰囲気がある。
- 仕事以外の活動をするのをよく思われない。
- 子供がいないと地域行事に参加するきっかけがあまりない。
- 地域を盛り上げて行くための情報発信の仕方に工夫が必要。

地域での人間関係について

- + 地元密着で近所づきあいも多く、安心して暮らせる。
- + 地域の方の見守りがあるので、子どもが一人で遊びに行っても安心。
- + 都会にいるときよりも、性別や年齢、属性などが様々な方々と付き合うことが多くなった。
- + 地域のつながりなど家族以外で助け合える、安心できるコミュニティが欲しい、作りたい。
- 地域や学校、親戚づきあいなど、人間関係が密で大変なことがある。
- 過干渉や噂がすぐに広まるのがいや。

見えてきた現状・ニーズ等

仕事や働き方について

- ▶ 仕事と家事や育児・介護の負担が女性に重くのしかかっている。
- ▶ 職場などに女性のロールモデルがおらず、将来を描きづらい。
- ▶ 男性育休取得者や女性管理職が増え、職場の意識改革が進んでいる。

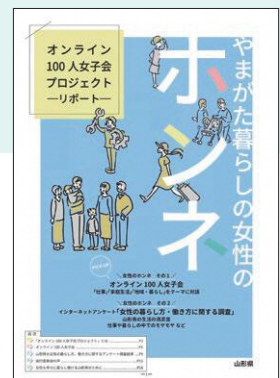
家庭や子育てについて

- ▶ 子育てにおける両親のサポートを魅力と感じている一方、それがままならない方々の疎外感・不安感も存在する。
- ▶ 男性の家庭参画が進む一方、依然として女性への負担感が大きい。
- ▶ 自然環境や食べ物への満足度が高い一方、公共交通機関や降雪時の不便さへの不満の声がある。

地域について

- ▶ 地域の支え合いの意識が安心感につながる反面、窮屈さも感じている。
- ▶ 自治会の役職への登用などにおいて性別による固定観念が根強く存在している。
- ▶ 子どものいない方や県外出身の方なども参加できる地域のコミュニティづくりが課題。

「令和3年度オンライン100人女子会」についてはこちらをチェック!



現場で 大事にしているのは 「共有」すること



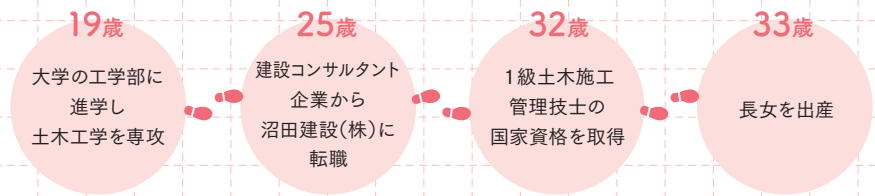
Role model 1

沼田建設株式会社(新庄市)
安彦 陽子 さん

真室川町出身、40歳。高校卒業後、宮城県の大学で土木を学ぶ。建設コンサルタントでの勤務を経て、沼田建設(株)に入社。キャリアアップを目指して入社7年目に1級土木施工管理技士の国家資格を取得。現在は土木部土木課の係長として、道路建設や河川の護岸工事などの現場で安全、品質、工程の管理等を担っている。舟形町で夫と娘2人との4人暮らし。

HISTORY

これまでの歩み

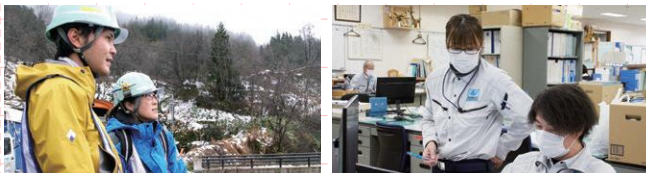


Q. 土木工学に興味を持ったきっかけは?

A. 母が総合建設業の事務員を長年しており、建設業の様々な話を聞いていました。何もなかったところに街ができたり、街と街をつなぐ大きな道路や橋ができたりすることに魅力を感じましたし、インフラの整備を通して地域の人々の暮らしを支えることに大きく貢献できるので、そうした仕事に就きたいと思い土木工学を専攻しました。

Q. 建設業界は女性が少ないイメージがありますが、仕事で心がけていることを教えてください。

A. 建設業界は女性の割合が1割くらいだと思います。力仕事では、男性とパワーの差があるので大変だと思いますが、私が従事している施工管理は力仕事ではないので女性も活躍していますし、社内にも土木部門で2人、建築部門で3人の女性技術者がいます。一番に心がけていることは、毎日、現場の方々が無災害で家に帰っていただくことです。コミュニケーションを取って安全管理を徹底し、労働災害事故が起きないように気を付けています。また、発注者の目的に見合った品質・完成形でお渡しできるよう、様々な現場で一つ一つ真摯に対応しています。ベテランや専門職の方々がたくさんいらっしゃるのど、とにかく分からないことは聞いて教えていただくようにしています。



Q. 仕事と家庭はどのように両立していますか?

A. 子どもが小さい時は頻繁に風邪をひいたりするし、すぐに治るわけではないので、何日か休まなければならないことが大変でした。会社や先輩のサポートがあって今があります。時間単位で有給休暇を取れるので早めに帰ることができずし、今も時短勤務を利用しています。私が現場にいなくても大丈夫のように、一緒に仕事をしている社員や上司と情報を共有するようにしています。また、仕事に限らず様々な話をし、いい関係を作るようにしています。どうしても休めない時や遠い現場で帰りが遅くなる時もありますが、夫が積極的に育児・家事を行ってくれるので、なんとか両立できていると思います。

Q. 山形で暮らし、働くことについてどのように感じていますか?

A. 実家が近く、保育園や学校が休みの時に子どもを預けられるので、助かっています。また、山形県や各市町村単位でも子育て環境に力を入れていると思います。私は舟形町に住んでいますが、子どもが生まれると祝い金があったり、子どもの医療費も18歳まで無料だったりします。そういった点では子どもを育てやすいと思います。

＼やまがた女子にメッセージを！／

地域の方々の暮らしを支えるインフラ整備の現場では、多くのスタッフが関わって仕事をしています。積極的にコミュニケーションを取って、1人で抱え込まずにみんなで情報を共有することで、仕事とプライベートを両立することができると思います。

インタビューー：佐藤 悠里さん

『私らしく』 農業を楽しんでいます

Role model 2

農業

梅津 悠さん

白鷹町出身、35歳。服飾の専修学校を卒業後、農産物直売所などに勤務し、26歳で就農。水稲種子や野菜などを栽培するほか、漬け物やお菓子などの加工品を販売。髪の毛、農作業用の軽トラックも、加工場も、大好きなピンク色で統一。実家で祖父、祖母、母と暮らす。

HISTORY これまでの歩み

18歳

専修学校を卒業後、
農産物直売所
などに勤務

26歳

祖父の後を
継ぐ形で就農

27歳

加工場を建設し、
トマトを使った
キムチの商品化に
携わる

29歳

県内の
女性農業者による
「やまがた農業女子
ネットワーク」に参加

Q. 農業を始めたきっかけを教えてください。

A. 農産物直売所でレジを担当していた時に、地元の生産者から農業の話聞いていましたが、元々農家をするつもりはありませんでした。ただ、農業をやっていた祖父の農地を終わらせるのはもったいなかったので、髪の毛を大好きなピンク色にできると思い、農家になりました。祖父や周りの農家の方々から作業を教えられたり、機械のエンジンがかからない時などは近くの人に声をかけて、助けてもらったりしました。

Q. 農家になって楽しいことや大変なことは何ですか？

A. 楽しいことは、髪をピンクに染められるし、ピアスもつけっぱなしでいいし、マニキュアを塗ったままでも良いところです。田植えの時期は忙しいですが、甥っ子や近所の子どもたちが手伝ってくれます。漬物やお菓子などの加工品作りや、近所のおばあちゃんとの交流も楽しいです。大変なことは、腕力が足りなくて、押す力が必要な耕運機などの操作が難しいこともあります。

Q. 地元で暮らして「いいな」と思うことを教えてください。

A. 周りの人が優しいです。近所のおばあちゃんたちは「あれ食べ」、「これ食べ」って声をかけてくれるので、私も頂いた野菜を漬物にしておすそ分けしたりしています。また、子どもたちを巻き込んでハロウィンを楽しみたいと考え、ハロウィン用のかぼちゃを栽培したら思いのほか実りました。回覧板で近所にご協力をお願いして、仮装して回ったらおばあちゃんたちが

お菓子をたくさん準備してくれて、子どもたちの袋がいっぱいになりました。楽しかったです。



Q. 農業に従事する女性同士のつながりはどうですか？また、これから目指す方々にメッセージをお願いします。

A. 「やまがた農業女子ネットワーク」に参加して、農業に従事する女性とどんどん繋がっていています。女性が増えてきたことにもびっくりしています。これから高齢の方々が引退すると、農家が一気に減少し、その農地をどうするかという問題が出てくると思います。女性でも農業はできますし、1人では心細い場合は、グループでやってみたり、ネットワークに参加したりすると、情報交換もできて意外と楽しいです。就農する方が増えると、耕作放棄地の問題も少し改善するのかなと感じています。

＼やまがた女子にメッセージを！／

元々農業をするつもりがなかった私ですが、今となっては、農作業、加工品作り、地元の方々や仲間との交流など充実した毎日です。自分なりに、前向きに、目の前の仕事や暮らしを楽しんでみて。

インタビュアー：開田 真由さん

子どもたちの笑顔と成長を見守り続けたい



Role model 3

有限会社スエヒロ
放課後等デイサービス
「みんなのそら にじ」(鶴岡市)
柿崎 彩佳 さん

福岡県出身、28歳。放課後等デイサービス「みんなのそら にじ」(鶴岡市)で児童指導員として、障がいや発達に特性のある子どもたちを見守る。8歳から新庄市で育ち、県内の高校を卒業。仙台市内の専門学校を経て特別養護老人ホームにて介護福祉士として勤務後、福岡県に戻り、児童指導員の仕事に出会う。鶴岡市に移住後もやりがいを感じた同職に就き、2児の子育てと両立中。

HISTORY

これまでの歩み

20歳

仙台市内の専門学校を卒業し、特別養護老人ホームに勤務

22歳

福岡県内の放課後等デイサービスに児童指導員として勤務

25歳

夫の仕事の都合により鶴岡市に移住、同社で児童指導員として勤務

27歳

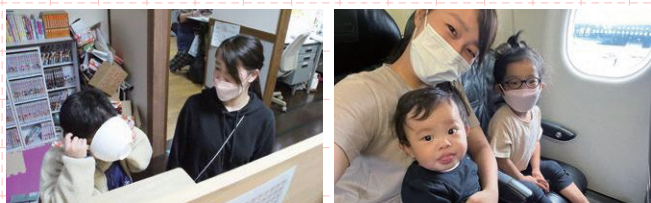
第2子を出産、勤務形態を変更して仕事を継続

Q. 児童指導員のお仕事について教えてください。

A. 学校が終わる時間に車で子どもたちを迎えに行き、こちらで一緒に勉強したり、工作や外遊びをしたり、1人1人に合った支援をした後、自宅まで送り届けています。命を預かっているのでも、安全第一で、緊張感を持って仕事をしないといけないと感じています。子どもたちが楽しんで笑顔で過ごすにはどうしたらよいかなど、スタッフと一緒に考えています。

Q. お仕事の魅力ややりがいはどのような点ですか？

A. 子どもたちの成長を一番近くで見られるのはとても嬉しいです。宿題を自分で時間を決めてやれるようになったり、言葉がだんだん上手になってきたり。私たちが思っている以上に、子どもたちはすごく考えているし、よく見えています。保護者の方々から「ありがとう」と言ってもらえるのも嬉しいし、この仕事をしていて良かったなと思っています。



Q. 今後の目標は？

A. 児童発達管理責任者になることです。個別支援計画やモニタリングなどを計画できるようになりたいし、スタッフをまとめていければとも思います。また、子どもたちの障がいについても、もっと知っていけたらと思っています。

Q. 育児と仕事の両立についてはどのように考えていますか？

A. 私はプライベートと仕事はきっちり分けるタイプです。例えば仕事での失敗を家には極力持ち帰らないようにしています。また、勤務先でスタッフが足りない場合は出勤しますし、逆に自分の子どもが急に熱を出したとなればそちらを優先しなければならない時もありますし、お互い様で臨機応変に対応するようにしています。夫が子ども2人を見てくれるなどサポートしてくれるので、土曜日や祝日の勤務にも対応できています。夫の理解があってこそです。

＼やまがた女子にメッセージを！／

子育てするために仕事を辞めるという選択肢はありませんでした。私の両立の秘訣は、仕事は仕事、家庭は家庭とキッチリ分けること。どちらにも全力で向き合うことで、自分の成長を実感できています。

インタビュー：佐竹 美咲さん

「好き」が原動力！ 地元で目指す“理想の姿”

Role model 4

株式会社 花泉(寒河江市)
齋藤 たまき さん

山形市出身、22歳。
高校卒業後、幼い頃からの夢である花屋を
目指し、仙台市の専門学校で学ぶ。卒業後
に入社し、2022年の技能五輪全国大会に初
出場し敢闘賞に輝いた。両親と実家暮らし。

HISTORY

これまでの歩み

6歳

花屋に
憧れを抱く

16歳

販売の知識を
学ぶため
商業高校に入学

19歳

フラワー装飾を
学ぶため
専門学校に入学

22歳

社会人2年目、
技能五輪
全国大会で
敢闘賞

Q. こちらでお花の仕事を始められた 経緯を教えてください。

A. 幼い頃、祖母の家に花を持っていくことがあったのですが、その時の花屋さんが、祖母のことを質問してくれながら、あっという間に祖母のイメージに合った花を選んでくれて、「魔法使いのようだ」と憧れたのがきっかけです。専門学校で学んだ後、働きながら資格を取得するための支援が手厚く、技能五輪の参加にも力を入れていることを知って就職しました。綺麗な花に囲まれての仕事は気分が上がりますし、お客様に「イメージどおりだったよ」などとお声がけいただけると嬉しいです。また、先輩方の高い技能や新しいことにチャレンジする姿を間近に見て、「自分も頑張ろう」「たくさん学びたい」という気持ちになります。



Q. 初出場した技能五輪全国大会は いかがでしたか。

A. 専門学校の頃、出場した先輩方の作品を見て「すごい」と憧れました。出場に向けては時間を見つけての練習など大変でしたが、花が美しく見える角度を追求するなど力が

つきました。本番では、他の出場者の作品を見て視野が広がりましたし、競うことで美意識も高まりました。敢闘賞は驚きでしたが、「もう少しできたのでは」という悔しさもあるので、来年もう一度挑戦したいです。

Q. 山形での社会人生活はいかがですか？

A. 慣れ親しんだ地元なので、配達の時も土地勘がありまして、すし、お客様とも話しやすいです。また、実家で暮らしているので、仕事で疲れて帰ってもご飯がすぐに食べられるのはありがたいですし、心細さもなく、落ち着いて仕事に集中できる環境です。

Q. 今後の目標を教えてください。

A. お客様の思いをできるだけ汲み取って花として形にすることが理想です。自分の理想の姿はもっと先にあります。技能五輪をきっかけに、美術館や写真展を巡って、お花以外の「美」にも触れて自分の美意識を高めたいと思っています。いずれは花の勉強で海外にも行ってみたいです。その後、山形に戻ってきて自分の店を開くことができたらいいなと思っています。

＼やまがた女子にメッセージを！／

幼い頃に憧れた職業に就いて2年目ですが、肌荒れや雪道の通勤、技能の鍛錬など大変なことも乗り越えられる原動力は、やはり「花が好き」という、ずっと持ち続けている思いかなと感じています。

インタビュアー：開田 真由さん



大好きな地元で 困っている人に寄り添う

Role model 5

齋藤知美司法書士事務所(山形市)
齋藤 知美 さん

山形市出身、37歳。司法書士として登記手続きや遺産相続などの支援に取り組む。県外の大学在学中に司法書士の国家資格を取得。卒業後、地元に戻り司法書士事務所に就職し、11年間勤務。2019年に独立し、2世帯住宅の一室に事務所を開業。祖母、両親、夫、息子、娘2人との8人暮らし。

HISTORY

これまでの歩み

19歳

中学時代から憧れた
弁護士を目指し、
大学の法学部に
進学

21歳

法律を学ぶ中で、
自分の思いに合った
仕事として
司法書士を志す

23歳

大学卒業後、
山形市内の
司法書士事務所に
就職

34歳

第3子の出産を
機に、独立し
司法書士事務所を
開業

Q. 司法書士を志したきっかけを教えてください。

A. 中学生の頃から弁護士を目指していました。カッコいいと思ったのと、地元に戻ってきてもできる仕事だと思ったからです。大学で法律を学ぶ中で、弁護士の仕事は、トラブルや対立関係が発生したところから始まり、それを解決するという性質が大きいと感じました。争いやトラブルになる前に相談に乗るという業務がメインの司法書士の方が自分に合っていると思いましたし、どうすればみんなが平和でいられるかということに力を注ぎたかったので、司法書士を志しました。



Q. 女性の司法書士は少ないようですが、苦勞されたことは？

A. 山形県内も含めて、女性の司法書士は少ないと思います。大学を卒業して司法書士事務所に勤務し始めた頃、相談に来られた方から「あ、女性なんだね」とか「びっくりしたよ」と言われたこともありました。当時勤務していたのはベテランの男性司法書士の事務所だったので、お客様が期待していた司法書士とは違っていただと思います。自分の力不足を感じて落ち込むこともありましたが、仕事に慣れてきて自分でも対応できるようになると、そうした状況も変わっていきました。独立し、事務所名に自分のフルネームを出して女性の司法書士

だと分かるようにしたことで、私だから相談に乗ってほしいというお客様に来ていただけるので、仕事がしやすいですし、やりがいも感じています。

Q. 独立して良かったことや大変なことは？

A. 元々勤務していた事務所も、保育園への送迎など時間を調整させてもらえたので働きやすかったですが、独立してからは自宅兼事務所ので仕事ができるので、空いた時間に家事をするなどこれまで以上に時間調整がしやすくなりました。自宅で仕事ができるのも気分的には楽です。一方、家族が帰ってくる夕方以降は家事や育児をして、その分、子どもが寝た後や土日に仕事をするなど、オンとオフの切り替えができていない部分もあります。

Q. 2世帯同居の暮らしはいかがですか？

A. 子どもたちにとって、おじいちゃん、おばあちゃんがいるのは良いことだと思います。私や夫が子どもたちを怒ってしまった時も、おじいちゃん、おばあちゃんは一歩引いて「こうだったんだよね」と子どもたちをフォローしてくれます。仕事が忙しい時に子どもたちを見てもらえたり、おかずをもらえたりして助かっています。

＼やまがた女子にメッセージを！／

自分の思いに向き合ってみてください。本当にやりたいことは何なのかが見えてくるはずです。誰でも気軽に相談できる司法書士であるために、知識や視野を広げていきたいです。

インタビューー：會田 洋代さん

自分の思いもスキルも 活かせる仕事が きっとある



Role model 6

山形市農業協同組合(山形市)

齋藤 萌 さん

三川町出身、29歳。鶴岡市内の高校を卒業後、東北芸術工科大学に入学し、デザインを学ぶ。大学4年生の時、教授に誘われ、「山形セルリー」のブランド化を目指す山形市農協のプロジェクトに関わったことをきっかけに、卒業後に同農協に入組。総務課のデザイン・広報担当として、同農協の広報物や商品のデザインを手がける。山形市内で1人暮らし。

HISTORY

これまでの歩み

19歳

デザインを学ぶため
東北芸術
工科大学に入学

20歳

農業とデザインの
関連に
興味を持つ

22歳

同農協の
「山形セルリー」
ブランド化の
プロジェクトに参加

23歳

大学卒業後、
同農協に入組し
デザイン・広報を
担当

Q. こちらの組合に入組された経緯を教えてください。

A. 学生時代は、農業とデザインを関連付けて何かできないかと考えていましたが、印刷会社やデザイン会社への就職を漠然と希望していて、農協への就職は全く想像していませんでした。4年生で卒業制作に取り組んでいた時、教授から、「山形セルリー」のブランド化を目指していた当農協のプロジェクトの手伝いをしてみないかと誘われました。プロジェクトに関わる中で、職員や生産者の方々の熱い思いを感じ、自分の思いを仕事に活かせるチャンスだと思い入組しました。私の実家は農家で、農協に勤めることを祖父がとても喜んでくれました。

Q. どのようなお仕事をなさっていますか？

A. デザインや広報の担当として、当農協の広報誌や、農業新聞に掲載する記事を書いたり、写真を撮影したりしています。また、お花のラベルや、お米のパッケージなども担当しています。グラフィックデザインやブランディングなど、大学での学びが業務に役立っています。私が作った広報物やデザインなどを通じて、当農協の美味しい野菜やお米の魅力が消費者に伝わり、組合員の方々の所得の増加につながればうれしいです。



Q. 山形で暮らし働くことの良さは何ですか？

A. 皆さん優しいです。組合員の方々のご自宅に何うと、「野菜がたくさんできたから」と言って野菜をくださったり、「この野菜はこう料理するとおいしいし、長持ちする」と教えてくださったりします。休日は、大学時代のサークル仲間とテニスをしたり、大会に参加したりしています。顔見知りも周りに多く、テニスの時に関係者の方とお会いするなど、良い意味で「世間は狭いな」と感じています。

Q. 今後の目標を教えてください。

A. 仕事面では、与えられた仕事をこなすだけでなく、自分から様々な提案ができるようになりたいです。「山形セルリー」のブランド化はもちろんですが、品質の高い山形のお米やお花の宣伝にも力を入れていきたいです。当農協の業務には、不動産もあるのですが、築年数が経過したアパートなどのリノベーションの告知にも積極的に携わっていきたいです。生活面では、常に新しいことにチャレンジしたいのと、一人暮らしの食生活を改善していきたいです。

＼やまがた女子にメッセージを！／

大学での学びを活かすため、デザイン会社などへの就職を漠然と想定していた私ですが、当農協のプロジェクトに参加し、思いもスキルも活かせる仕事に就くことができました。自分の行きたい道に突き進むことも大事ですが、回り道をして様々な人や物事と関わることで、思わぬ良い出会いがあるかもしれません。

インタビューー：山田 望未さん



子育ても一生懸命、
夢にも一生懸命。

Role model 7

鶴岡スペースステーション(鶴岡市)
佐藤 涼子 さん

東京都出身、37歳。大学では物理を専攻し、電源メーカーに就職後転職し、国際宇宙ステーションの運用管制業務に従事。パートナーの出身地鶴岡に移住後、管制官の経験を活かして廃校を使った宇宙イベントを行う活動を開始。出産後は子育てと両立しながら鶴岡に科学館を作る夢を追いかけている。

HISTORY

これまでの歩み

14歳

中学の地学の授業がきっかけで宇宙に興味を持つ

22歳

メーカーに就職し、宇宙関連施設と接点を持つ

27歳

国際宇宙ステーションの管制官業務に従事する会社に転職

30歳

鶴岡に移住、「鶴岡スペースステーション」を立ち上げる

Q. 鶴岡での仕事や暮らしについて教えてください。

A. 今は子育て中心ですが、国際宇宙ステーションの管制官だった経験を活かし、子どもたちや地域の方々に宇宙について興味を持ってもらい、継続した好奇心を育てていただけるようなイベントや講演を行なっています。先日のイベントでは3日間開催して約1,000人もの方に参加していただき、自分でも驚きました。



Q. 管制官の仕事を辞めることに、ためらいはありませんでしたか？

A. それほどありませんでした。管制官の仕事は非常にやりがいがありましたが、「やり切った」感じがありました。今は鶴岡で大好きな宇宙に別の形で関わられていると思います。イベントに参加したことがきっかけで地域の方に宇宙に興味を持ってもらえたり、「宇宙ステーションを観測したよ!」と報告してくれる子どもたちに出会うと、やって良かったという思いを強くしています。

Q. 鶴岡での子育てはいかがですか？

A. 都会のマンション等に比べて、子どもが大きな声を出しても気にしなくていいので助かっています。空気もおいしく、自然が豊かなのでのびのび育てられるし、優しい人が多く子どもにも声をかけてくれたり、お祭りなどの行事もあつたりするのでとても子育てがしやすいです。

Q. 「鶴岡スペースステーション」の活動のきっかけは。

A. 夫の実家のある鶴岡へ移住することになり、管制官の仕事は辞めましたが、何より自分が宇宙に関わり続けたかったからです。鶴岡には宇宙に触れる機会が少なく感じたので、宇宙の不思議や面白さを地域の方や子どもたちと共有したいと思って始めました。

＼やまがた女子にメッセージを！／

移住先の山形でつけた夢のつづき、子育てしながら挑戦中。努力が全て叶うわけじゃないけれど、好きなことなら頑張れる。諦めないで追いつけて。

インタビュー：丸谷 芽生さん

その時々で優先することを 前向きに選択する

Role model 8

AGCディスプレイグラス米沢株式会社(米沢市)

鈴木 友紀 さん

埼玉県出身、44歳。車載用カバーガラスなどを生産するAGCディスプレイグラス米沢(株)で品質保証室の主任技師として勤務。山形大学工学部では、高分子化学の研究に取り組む。卒業後、米沢市内の製造業の会社に就職し、同僚の男性と結婚。夫の意向を機に退職し米沢を離れ、2児を出産。米沢に戻った後、現在の会社に一般職として入社。キャリアを積んで、入社10年後に総合職となる。

HISTORY

これまでの歩み

18歳

化学が好きで、山形大学工学部に入学

25歳

夫の意向を機に退職、その後、2児を出産

28歳

米沢に戻り、29歳で現在の会社に一般職として入社

39歳

総合職にキャリアアップ

Q. 前の会社を退職された時や今の会社に再就職された時の思いをお聞かせください。

A. 仕事を辞めて夫についていく決断をした時、もっと長く勤めたい気持ちはありましたが、これから家族が増える基盤を作る時だと考え、今は子育てに専念し、米沢に戻ったらまた仕事をしようと思っていました。米沢に戻り、下の子が1歳になったタイミングで当社に一般職で入社しました。就職活動は、子どもが小さかったので土日休みなど勤務形態を優先しました。その都度、自分が何を優先したいとか、譲れないものを持ち続けていたことで、想定外の退職や、再就職活動等のライフイベントの変化にも前向きに向き合えたと思います。

Q. 仕事と子育ての両立をどのようになさいましたか？

A. 核家族で、すぐに助けを求められる人が周りにおらず、入社後は、幼稚園へのお迎えがいつも最後になるなど毎日バタバタでしたが、当時の上司が3人の子どもをもつ総合職の女性で、大変さを共感してもらえたのは心強かったです。また、同僚もとても理解があり、休んだ時は「大丈夫」「心配しないで」などと声をかけてもらいました。子育て中の後輩には「そんなに頑張らなくていいよ」「周りを頼っていいよ」と伝えてあげたいです。



Q. 山形での暮らしはいかがですか？

A. 四季がはっきりしているので、季節ごとの楽しみがいろいろあります。また、地域の方々や違う学校の子どもたちなど様々なコミュニティの中で子育てができて良かったですし、ママ友にも助けられました。地理的には東京から遠いですが、リモートワークなども普及してきていますし、山形だから何かができないということはないと思います。

Q. 今後の目標を教えてください。

A. 仕事では、困った時に頼りにされるよう、広い知見や技術を身に付けたいですし、お客様と良い関係が維持できるよう、自分を磨いていかなければならないと思います。後輩に「ああいう先輩がいるから自分も働こう」としてもらえるような、人としての魅力を身に付けたいです。プライベートでは、子どもたちが成長し、もうすぐ夫婦2人だけの暮らしになると思うので、これから夫婦の時間をどう使っていくか考えています。また、自分1人でも楽しめることを見つけて、アクティブにいたいと思います。

＼やまがた女子にメッセージを！／

女性は結婚や出産など様々なライフイベントがありますが、現状を前向きに捉えて選択してみましょう。私は、夫の意向に伴い仕事を辞めることを残念にも感じましたが、再就職するまでの間、「家族」というチームの基盤を築けたのは、自分にとって大きな経験になっています。

インタビュー：佐竹 美咲さん

1つ1つの仕事に 丁寧に向き合い、 信頼とキャリアを築く

Role model 9

山形朝日株式会社(南陽市)
鈴木 優美 さん

高島町出身、38歳。日本の5Gを支える通信インフラ関連のラック製品等を生産する山形朝日(株)の営業課長代理として、製造現場の調整を行いながら全国の取引先の要望に応じている。社外研修等にも積極的に参加してスキルアップを続け、丁寧な仕事ぶりは社内外からの信頼も厚い。

HISTORY

これまでの歩み

22歳

専門学校で「初めての挫折」を経験し、やりたいことを見失う

25歳

様々な仕事を転々と。5年間で派遣含め7社3職種を経験

28歳

県の就労支援事業にて研修後、山形朝日(株)に入社

37歳

社長が担当していた顧客を引き継ぎ、営業課長代理に就任

Q. こちらの会社に就職したきっかけはどのようなことですか？

A. 高校生からの夢だった医療系を目指していた私は、実習で初めての挫折を経験し夢を諦めました。今思えば後悔でもありますが、違った見方では、何があっても前向きに生きていけば大丈夫ということです。安定した職に就きたい気持ちが強かったので、当時の県の就労支援事業に参加してワードやエクセルなどのパソコンスキルを学ぶ研修を受けた後、当社に就職しました。「これがやりたい!」という強い気持ちがあったわけではないのですが、今思うと、たまたま縁があった当社が、自分がやりがいをもって働ける運命的な会社だったという感じです。



Q. 営業職のお仕事について教えてください。

A. 営業の仕事はノルマを達成しないとイケないイメージがあったので、営業だけはやりたくないと思っていました。社長をサポートして仕事を覚えていくうちに気づいたら営業だった、というのが正直なところで、自分が持っていた営業のイメージとは全然違いましたね。たくさんの人との関係性が築けるいい仕事だなと思います。当社の営業の仕事は、お客様のご要望をお伺いし、それにお応えすべく製造現場と調整するという、いわば仲介役なので、業務をスムーズに進め、良い製品づ

くりにつながるよう心がけています。お客様からの「ありがとう」の言葉がやりがいです。

Q. 製造業の営業職というと男性が多いイメージがありますが、女性であることでやりにくさなどを感じたことはありますか？

A. 男性だから女性だからというよりは、それぞれ個人がその仕事に向いているのかどうかではないでしょうか。製造業は細かい仕事も多いので、むしろ女性の方が向いているような気もします。最初の頃は女性の営業ということで、お客様から「営業は男性じゃないの?」と言われたこともあったのですが、ご要望に1つ1つしっかり丁寧に対応することで、お客様も見方を変えて下さって、今は全く不便を感じていません。

Q. 山形の中小企業についてどのようにお考えですか？

A. 取引先には大企業も多いですが、そうしたところは、私の印象として、組織が大きい分、関係各所との調整等意思決定に時間がかかる気がします。タイトな納期や急ぎの試作品については、スピーディーに対応できるということで当社にご依頼いただく場合もあります。新しい挑戦や変化に素早く対応できるのは中小企業の特徴だと思います。

\やまがた女子にメッセージを! /

やらないで後悔するより、やって後悔の方が良い。
若いうちは失敗しても大丈夫。たくさん挑戦してみてください!

インタビュアー：五百川 遥さん



伝統野菜の魅力発信へ、 ポジティブにチャレンジ

Role model 10

株式会社 マルハチ(庄内町)

須田 千晴 さん

鶴岡市出身、27歳。市内の高校を卒業後、山形県立米沢栄養大学に進学し、健康栄養学科で管理栄養士の資格を取得。入社後、研究開発部に配属となり、地元の伝統野菜などを使った漬け物などの商品開発や改良などに携わる。入社5年目。鶴岡市内で1人暮らし。

HISTORY

これまでの歩み

19歳

管理栄養士を目指すため
県立米沢栄養大学に
入学

20歳

大学の授業で
伝統野菜に
興味を持つ

22歳

地元の
庄内地方に戻り
(株)マルハチに
入社

23歳

伝統野菜の
温海かぶを使った
ロングセラー商品の
研究開発に携わる

Q. こちらの会社に入社された理由を教えてください。

A. 大学の授業で料理のレシピを考えた時、地元の食材を使い、使いたくて調べたところ、伝統野菜の魅力を感じました。400年近くの歴史がある温海かぶなど地元の伝統野菜を使って商品開発し、現代の人に美味しい漬け物を届けている当社で働きたいと思い入社しました。地元で働きたいという気持ちも大きかったですし、知り合いが農家だったので野菜を商品として活用することでお手伝いしたいという思いもありました。



Q. 商品開発のために心がけていることはありますか？

A. まずは自分の中に情報をインプットすることがスタートだと思っています。会社で実験するだけでなく、商品の展示会でお客様とお話したり、産直施設でその土地にしかない野菜やスーパーのお菓子コーナーを見たりなど、漬け物だけではなく他の商品にも視野を広げて見えています。あとは、いろいろな経験を通して、前向きに考えるほうが人生は楽しいと感じたので、ポジティブであることを意識しています。新商品を考える上でも後ろ向きだとアイデアが出てきませんからね。

Q. 仕事と生活の両立はどのように図っていますか？

A. 会社では仕事に集中し、家に帰ったらリラックスして英気を養うことを意識しています。自然が好きなので、場所を変えて海に行けば一息とするなどして、オンとオフのバランスを取っています。外食に行った時などは、料理に使われている野菜が「こうやってできているな」と自然と仕事に関連づけて考えてしまいますが、自分の中で楽しいから考えているという感じですね。

Q. 今後の目標を教えてください。

A. 一番の目標はやはり商品を通してより多くの人に喜んでもらいたいです。若い世代にも漬け物を広めていくにはどうしたらいいか日々考えながら、小さい子や若い方にも美味しく食べてもらう漬け物を作っていきます。あとは、山形は伝統野菜が他の地域よりも種類が多く残っているので、もっとアピールして、これからも残していけるよう努力したいです。全国の方々に知っていただければ、地元の生産者の方々にも喜んでもらえると思います。

＼やまがた女子にメッセージを！／

地元の伝統野菜を多くの方々に食べていただくため、商品開発に取り組んでいます。ポジティブな気持ちで自分から行動してみると、様々なアイデアが湧いてきて、仕事にも生かされるはず。

インタビューー：佐竹 美咲さん

前の世代の想いを 次世代につないで、 恩返ししたい

Role model 11

アルス株式会社(米沢市) 高橋 千夏 さん

米沢市出身、37歳。日本で数社しか手がけていない木製サッシを製造するアルス株式会社の取締役副社長。県外の大学を卒業後、大学近辺の自動車の研究所で技術者にCADを教える業務に従事したのち、父親の経営するアルス(株)にUターン就職。現在は自社を経営しながら、米沢を観光面から盛り上げるプラットヨネザワ株式会社のディレクターとしても活動中。

HISTORY これまでの歩み

21歳

県外の大学に進学、学生結婚をして出産

24歳

大学近辺の企業に就職、子育てと仕事の両立に奮闘

29歳

両親からの「英語とCADを使えるから戻ってこないか」に応えてUターン

37歳

米沢と次世代に貢献するためにプラットヨネザワ(株)の手伝いを始める

Q. 経営の仕事で大変なことはどのようなことですか。

A. 誰にもお願いできない仕事なので、何があっても全てを背負う覚悟をすることです。大変ですが、それが経営の仕事の醍醐味でもあります。また、会議などでは女性の経営者として名前をすぐに覚えていただきましたが、「女性は何となく発言しにくいな」と思ったことがあります。私は「女性活躍」という言葉が実はあまり好きではないんです。男女というカテゴリーで対応を分けるのではなく、一人の人間として社外の人にも従業員にも接するようにしています。



Q. 大学生の頃に国際結婚と出産を経験されましたが、子育てと学業・仕事の両立はどのようになさったのですか。

A. 無我夢中でした。子どもって試験の時など大事な時に必ず熱を出したりするんですよ。周りの人にとっても助けてもらいました。就職してからも夫と分担してはいましたが、いつも有給休暇がゼロになってしまっていて。でも、だからこそ、やれる時に精一杯やる、子どもを理由に仕事で負けたくない、という働

き方が身に付いて、今があるのかもしれない。米沢に戻ってきたからは、近くに両親がいるのでかなり助けてもらっています。

Q. 山形で働いて良かったなと思うところは？

A. 大企業で働いている頃は自分の仕事が誰の役に立ったかが見えにくかったのですが、アルスの規模だと自分のした仕事の成果がよく分かり、面白いです。20代のときは大企業に勤めていた「何者でもない誰か」だったけれど、30代では「アルスの高橋千夏」になれています。仕事でストレスが溜まったら、おいしいものが食べられたり、温泉に入ったりしてリフレッシュできるのも山形で働く魅力だと思いますね。

Q. 今後の目標は？

A. 私は子育て中に多くの人に助けてもらって今がありますから、自社を従業員が働きやすい会社にしていくことと、プラットヨネザワ(株)の活動を通して地域や社会に恩返ししていくことが目標です。私一人だけが頑張っても難しい挑戦ですから、米沢の企業や仲間と一緒に、より良い地域や社会を作りたい。自分の存在を知ってもらって、自分も頑張ろう!とか、一緒に頑張りたい!と思ってくれる人がいたら嬉しいです。

＼やまがた女子にメッセージを！／

私は飛び抜けて能力が高いわけじゃない。多くの人に支えてもらって、今がある。誰だってきっとなんとかやれるから、やらずに後悔するよりポジティブになってみて。

インタビューー：原田 麻衣さん

努力を積み重ね、 日本料理の魅力を 伝えたい

Role model 12

加茂水族館 城下町鶴岡 浜の台所
魚匠ダイニング沖海月(鶴岡市)

高山 未緒 さん

鶴岡市出身、22歳。酒田市の高校の調理科で日本料理などを学ぶ。卒業後に沖海月に入社。2020年に長女を出産後、産休を経て復職。市内で夫と娘との3人暮らし。趣味はガーデニング。



HISTORY

これまでの歩み

11歳

お菓子作りが好きで
パティシエになる
夢を持つ

18歳

高校の授業で
日本料理の
魅力を知り、
料理人を志す

19歳

高校時代に教わった
料理長がいる
沖海月に入社

22歳

2回目の
出場となった
技能五輪全国大会で
敢闘賞受賞

Q. 日本料理に興味を持ったきっかけは？

A. もともと料理好きだったのと、先に調理科で学んでいた兄の影響もあって、調理科のある高校に入学しました。小学生の時からお菓子を作るのが好きだったので、ずっとお菓子作りをやりたいと思っていましたが、高校3年生の時に日本料理を学んで変わりました。日本料理は季節によって食材も変わりますし、盛り付けで季節を表現できたりもするので、すごく楽しいと思いました。



Q. お店では、どんな食材を使っていますか？

A. この地域で昔から育てられている外内島(とのじま)きゅうりなどの在来野菜を定食に使っています。そういった地元のものを使えるのがいいですね。冬だと、このあたりでとれるフグがおいしいので、定食がすごく人気です。これからフグの調理免許を取って、先輩と一緒に定食を作れるようにしたいです。

Q. 料理人として県外で活躍したいと思ったことは？

A. ここを辞めてまで他の県に行こうとは思ったことはないです。高校時代に現在の料理長に教わったように、私が教える側になれたとしたら、県内の若い人にも日本料理の魅力を広く知ってもらいたいと思っています。また、地元の農家の方々とも関わりがあるので、野菜などを直接いただけるのもとてもいいところです。

Q. 和食の料理人という、 厳しいというイメージがありますが、 入社してから辞めたいと思ったことは？

A. 最初の頃、料理長が買ったばかりのたくさんの血に薬味を付けて、それを冷蔵庫にしまう時に全部ガシャンと落として半分ぐらい割りました。「やっちゃった…」って、泣きましたね。何段も重ねたままではなく、1個ずつ丁寧に入れないといけなかったんですね。怒られることもあります。私が失敗したことなので、それは受け止めないといけないし、ちゃんと料理長が教えてくれるので、しっかり改善していこうという気持ちで頑張っています。

＼やまがた女子にメッセージを！／

たとえ失敗しても、それを受け止め、こつこつと努力を重ねることで着実にスキルアップにつながるはず。私も技術を磨き、日本料理の素晴らしさを若い人に伝えていきます。

インタビューー：丸谷 芽生さん



地元の山形から、 世界に発信していきたい!

Role model 13

東北パイオニア株式会社(天童市)
富樫 周子 さん

寒河江市出身、32歳。東北パイオニア(株)市販サウンド部営業部市販管理課に勤務。大学在学中に英語を学ぶとともにオーストラリアでのホームステイ、留学生支援のボランティア等を経験。新卒で同社に入社し、語学の研修を積み社内制度を活用してアメリカの関連会社へ2年間出向、現在は北米市場の担当として売上の動向分析などに従事。

HISTORY

これまでの歩み

13歳

家族の影響で、
漠然と
教師を目指す

19歳

留学生支援
ボランティアや
ホームステイをきっかけに
海外に興味をもつ

22歳

山形にしながら
世界とつながる
仕事を希望し、
同社に入社

27歳

アメリカの
関連会社に出向、
29歳で帰任後、
北米市場担当となる

Q. お仕事について教えてください。

A. 主な仕事は、自社のサウンド製品の北米市場での売上、の動向・分析、新製品の導入です。アメリカの関連会社に出向した時に自社製品の売り場で、お客様から「こんな良い製品をありがとう」とお声がけいただき、自分が関わった製品が世界で認められていることにやりがいを感じました。また、アメリカ出向中に日本人の勤勉さについて再認識したので、私自身も与えられた業務は責任を持ってやるよう意識しています。

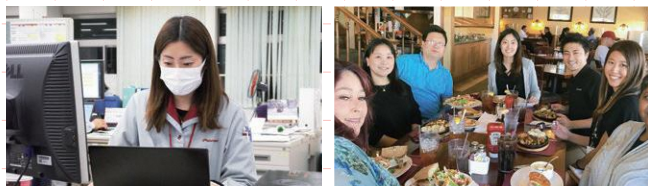
Q. この仕事を選んだ理由は何ですか。

A. 身内に教員が多かったので、英語の教員を目指した時期もありましたが、大学在学中にオーストラリアでのホームステイや留学生支援のボランティア等を経験し、多様性の視点に気付くなど価値観が広がりました。自分の知らない世界や文化に触れたいという思いが強くなり、山形から製品を通して技術を世界に発信している当社に入社しました。私の好きな音楽に関連する企業だったこともあります。

Q. 理系出身や男性の方が多いイメージの製造業の企業に就職されて大変なことなどはありますか？

A. 製品自体の知識は全くありませんでしたが、会社内の研修や実際の業務を通して身に付けていくことができます。また、例えば、エンジニアは製品を見る際は技術面に注目しますが、文系出身の社員が持つ技術面がわからないからこそ

の一般的な視点というのも大事ですし、それぞれの特徴を活かすことで良い製品ができると思います。さらに、当社も男性の社員が多いですが、出産後の時短勤務制度など働きやすい環境が整えられているので、女性が働くことにも理解がある会社だと感じます。



Q. 大学生のうちにしておく良いことはありますか？

A. 色々な経験を積んでおくことだと思います。様々な学問、や人に触れられる貴重な時期ですから、「ちょっとやってみようかな」くらいでいいので、興味のあることに飛び込んでみて欲しいです。すると視野が広がって、自分自身を知ることにも繋がります。今後もグローバル化が進む中で、どのような仕事をするにしても、自分の考えを当たり前だと思わずに、多様性を受け入れていく姿勢を養うことも大切だと思います。

＼やまがた女子にメッセージを！／

少しでも興味がわいたら色々飛び込んでみて。今の自分の価値観だけにとらわれず視野を広げてみると、これまで気づかなかった新しい自分に会えるかも。

インタビューー：原田 麻衣さん

学ぶ機会を活かして、 キャリアアップ

Role model 14

リコージャパン株式会社山形支社
(山形市)

野口 恵美 さん

山形市出身、48歳。リコージャパン(株)山形支社 事業戦略部にダイバーシティ推進、採用、顧客対応などを担当。SDGsを推進するキーパーソンとして社内外にSDGsの輪を広げる活動もおこなっている。コミュニケーション能力を活かしながら、事業活動を通じた地域課題の解決に取り組んでいる。

HISTORY

これまでの歩み

15歳

修学旅行で出会った添乗員に憧れ、観光業に興味をもつ

18歳

県外の短大に進学し、旅行会社に就職

23歳

山形に戻り、営業やサービス業など様々な業種・職種の人に6年間勤務

30歳

リコージャパン(株)入社、資格取得などを経て16年後に管理職に

Q. 現在のお仕事について教えてください。

A. 社内外の人と関わる仕事を中心です。お客様に社内の実践事例をご紹介します。課題解決や企業価値向上を支援しています。また、地域や学生の方々にSDGsの輪を広げる活動や採用担当として会社説明会や新人教育などにも携わっています。様々な職種、業界の方とご縁ができた、話をした元気をもらったと言ってもらえたりすることがやりがいです。多くの方と関わる機会が多いので、思いを聴くことを大切に、太陽みたいな存在でいられるよう笑顔を心掛けています。



Q. 今のお仕事に就くまでの経緯を教えてください。

A. 短大卒業後、旅行会社に就職しましたが家庭の事情もあって山形に戻り、営業やサービス業など様々な経験を重ね、ハローワークで当社を見つけて入社しました。最初は社内での仕事が多かったのですが、お客様と関わる職種に変わったりと東京に転動したりして可能性が広がりました。現在はキャリアアップのために資格取得にも挑戦し、自己研鑽に努めています。何度か転職を経験しており、その度、勇気がいりましたし、不安もありましたが、同じくらいワクワク感とドキドキ感がありました。アンテナを高くして情報を集め、自分を俯瞰的に見て「今何がしたいのか」自問自答し、本当にやりたい仕事を探して挑戦してきた気がします。

Q. 仕事とプライベートの分け方やリフレッシュ方法はありますか？

A. スーツを着て会社に来ると仕事スイッチが入ります。家に帰ると自然とお母さんスイッチが入り、子どもと同じ目線で遊ぶことでリフレッシュしています。また、山形は食べ物も水も空気もおいしいので、仕事でストレスを感じたとしても、やっぱり地元の山形で働いて生活するのはいいな、と思います。

Q. 今後のビジョンについて教えてください。

A. いま力を入れているのは、誰もが働きやすい職場づくりの実践です。中でも女性ももっとイキイキと長く活躍できる職場づくりに力を入れています。山形支社の女性社員は全体の1割程度なので、意見が出しやすいように月に1回女性だけのミーティングを開催し、社内改善の提言につなげるなどしています。この活動のおかげで社内のコミュニケーションも活性化できていると感じています。家庭と仕事を両立していくうえでの難しさは時間に制約があることも1つあると思っています。限られた時間の中でも、自身の能力を発揮でき、周りに評価され、誰もがイキイキと活躍できる職場。そんな職場づくりに貢献していきたいですね。

＼やまがた女子にメッセージを！／

色々悩むことがあっても、悩み切ると必ずと結果は出てきます。若い頃は都会に憧れたけど、山形って仕事も生活も子育てするにもいいところですよ。身近なところにも目を向けてみて！

インタビュアー：五百川 遥さん

ワクワクを創造し、 世界を楽しむ

Role model 15

合同会社 GLAMPiC(山形市)
芳賀 温子 さん

東京都出身、32歳。グランピング施設「GLAMPiC」代表。大学卒業後、企画営業職として2年間勤務し退職、海外での起業を目指して2ヶ月間、海外を放浪。パートナーが寒河江市の地域おこし協力隊に応募したのをきっかけに、山形県での起業に計画を変更し移住。山形市内の3,000坪の裏山付きの土地に出会い、2017年にカフェをオープン。その後グランピング施設、ゲストハウス、DIYスタジオなど次々と事業を展開中。

HISTORY

これまでの歩み

19歳

ビジネスへの
興味から
大学の商学部
に入学

22歳

海外で
ボランティアを
経験し、起業に
関心を持つ

26歳

会社を退職し、
2ヶ月間
海外を放浪

27歳

山形に移住、
女性向けの創業支援や
補助金等を
活用して起業

Q. 新しい事業のアイデアは
どのように浮かんでくるのでしょうか？

A. 先に事業計画があったのではなく、まず3,000坪の裏山と湧水付きの土地を借りることに決めてから、「この土地でどのような事業ができそうか」という視点で考えていき、カフェや大自然を活かしたグランピング施設、DIYスタジオなどのアイデアが出てきました。カフェから始めたのは、お客様に気軽に来店して認知してもらって、そこから宿泊業などにも広がっていったからです。自分がワクワクしたものをたくさんメモしておいて、その中から何か事業に活かせるものがあるかを常に考えています。

Q. とてもお忙しいようですが、
リフレッシュ方法などを教えてください。

A. 山に登ったり、カヌーをしたり、色々なアクティビティを楽しみ時間を大切にしています。そうした体験を通して新しい事業に活かせるようなワクワクや楽しさが見つかることも多いです。今は、どんなに忙しくても週1回のダンスの時間を確保し、体を動かしてリフレッシュしています。

Q. 山形でのビジネスで難しさを感じるのとはどのようなことですか？

A. 関東圏に比べて人口が少ないので、新規のお客様を獲得するよりリピーターをいかに増やすかを考えなければなりません。また、冬場は雪道の移動が大変だったり、公共交通機関が少なかったりすることから、冬や夜の営業は難しいなど、営業スタイルにも影響があります。私たちのグランピング施設に来るお客様のうち、車を持っていない若い人や、県外・海外から来るお客様などは、バスの本数が少ないので不便に感じられているようです。

Q. 今後の目標はどのようなことですか？

A. 新しいことを試行錯誤しながら立ち上げていくことに楽しさを感じるので、今後も新たな事業に挑戦していきたいです。どんなに考えても結局やってみなければ分からないし、ワクワクすることをやってみようという気持ちが強いかな。山形には都会のワクワクとは種類の違うワクワクがいっぱいあると思いますよ。私が今一番ワクワクしているのは、新たに取得した土地に自分たちの手で自分たちの家を建てることです。



＼やまがた女子にメッセージを！／

何か心がワクワクすることがあったら、どんどんチャレンジして経験を積んで。未来は自分の物差しで見て、感じて、選択できるようにしてほしい！

インタビューー：田中 千波さん

仕事と走りで 地元之恩返ししたい



Role model 16

カーブスMORI東根(東根市)
本間 未来さん

東根市出身、27歳。中学生で本格的に陸上競技の長距離種目を始め、地元の駅伝チームの練習に参加。高校卒業後、新潟県の実業団チームに進み競技を続けるも、怪我に悩まされ、2年で退団し、帰郷。駅伝チームでお世話になった同社社長から誘いを受け入社。スポーツインストラクターとして女性の健康維持をサポートしながら、個人や駅伝チームの目標に向かってトレーニングを続ける。

HISTORY

これまでの歩み

13歳

地元の
駅伝チームの
練習に参加

16歳

県内の
強豪の高校に
入学

19歳

卒業後、新潟県内の
実業団チームに
所属するが怪我に
悩まされる

21歳

実業団チームを
退団し地元に戻り、
現在の会社に
就職

Q. 今のお仕事に就くまでの経緯を教えてください。

A. 高校を卒業し新潟県内の実業団チームに所属しましたが、環境の変化や度重なる怪我でうまく行かず、退団し地元に戻りました。しばらくは走らないつもりだったのですが、1、2週間経つと走りたくなり、軽い練習のために競技場に行くと、たまたま当社の社長に会いました。社長には以前から地元の駅伝チームでお世話になっていた自分の現状を話したところ、「向いている仕事があるからやってみる?」と声を掛けてもらいました。会員の方々の運動をサポートしたり、相談に応じたりする仕事にやりがいを感じ、入社しました。



Q. 山形に戻ろうと思った理由は?

A. 走ることが嫌いになる前に、実業団チームを離れ、これから何をしたいのか考える時間が必要だと思いました。自分が一番安心できる実家に帰ることで、親や周りの人たちから意見を聞くことができるし、これからも走りたいかどうかなど落ち着いて考えることができると思いました。

Q. 地元でこの仕事をして良かったと思うことはありますか?

A. 会員の方々が「健康診断で体重が減ったよ」、「痛みがなくなったよ」などと教えてくださり、ご本人以上に私が喜んじゃいます。地元なので、同級生のお母さんやおばあちゃん、小学校の担任の先生など、小さい頃から顔見知りの方々も来てくださっています。今までお世話になった方々に健康になってもらったり、笑顔になってもらえたりすることが嬉しいです。

Q. 今後の目標を教えてください。

A. 仕事面では、子どもの頃からお世話になった方々などの健康や幸せに寄り添っていきたいという思いが強いです。自分が将来、結婚や出産をした後も長くこの仕事を続けていきたいです。生活面では、フルマラソンの山形県記録を更新したいですし、駅伝でも地元チームに貢献し、家族や支えていただいている方々に少しでも勇気や元気を与えられるような走りをしていきたいです。

\やまがた女子にメッセージを! /

自分が一番安心できる地元に戻り、仕事にも競技にも前向きに取り組むことができます。お世話になった方々への感謝の気持ちを大事にすることが、日々を充実させる原動力になるはずです。

インタビューー：山田 望未さん

好きな研究が 続けられる環境は、 鶴岡にあった！

Role model 17

ヒューマン・メタボローム・
テクノロジーズ株式会社(鶴岡市)

松田 りら さん

鶴岡市出身、28歳。ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社(HMT)で研究職として勤務しながら慶應義塾大学大学院にも通う。高校生研究助手として同大学先端生命科学研究所に関わり、バイオ研究を続けるために同大学に進学。修士号取得後、学生時代にインターンシップを行ったHMTに入社。

HISTORY

これまでの歩み

11歳頃

小学生の頃に
テレビで白衣を着て
実験する人を見て
興味を持つ

17歳

藻類の研究を
高校生研究助手
として開始

20歳

大学2年生の時に
実践型
インターンシップを
2ヶ月実施

25歳

HMTに入社、
大学院に通い
博士号取得を
目指す

Q. バイオの研究に関わるようになったきっかけを教えてください。

A. 小学生くらいから研究にはずっと興味があり、高校2年生で研究助手の募集を見てやってみようかな、と応募して本格的に藻類の研究を始めました。高校では家政科で栄養学の勉強をしていたので通じるものも多く、「高校生バイオサミット」では研究発表をしました。研究を続けたかったので慶應義塾大学に進学し、就職先も研究が続けられるところを選び、今も社会人大学院生として通っています。

Q. 研究開発のお仕事について教えてください。

A. メタボローム解析技術を使って、ヨーグルトの成分の数値を出して商品の差別化をしたり、付加価値をつけたりしています。また、病気の予防は数値化できないこともまだ多いので、自社の技術を使って代謝物を測定することで予防できるようにしたいです。また、判断が難しい病気は、分析した数値の相関や変化を見て病気の診断ができるようなサービスの技術開発の基礎研究に携わっています。

Q. 進学先は関東の大学ですが、就職先に鶴岡を選んだ理由は。

A. 関東でも就職活動やインターンシップを行い就職先としても検討しましたが、HMTでインターンシップを実施した時に一緒に働いた方々と私も働きたいと思いました。都会は色々和誘惑が多いので、鶴岡のほうがやりたいことに集中できるし、私は人見知りなので穏やかな人が多い鶴岡の方が自分に合う環境だと思ったからです。

Q. 理系は男性というイメージが根強いですが、進学や就職の際に困ったことなどはありましたか。

A. 家族は少し心配していたようですが、研究所の先輩たちの半数くらいが女性だったので、その説明をしたら安心したようでした。自分自身はやりにくさなどは感じたことはなく、会社でも論文を書く時期などは論文の執筆に集中していいよと言って支えてくださるので、男性、女性ということはなく今も研究を続けていられます。



＼やまがた女子にメッセージを！／

白衣への憧れを、仕事にできた。
やりたいことって意外と身近にある。失敗を恐れずに一歩踏み出して、とりあえずやってみて。

インタビュアー：丸谷 芽生さん



山形で実現 “自分らしい”暮らし

Role model 18

絵本作家

ラーワー ちひろ さん

群馬県出身、35歳。地元の学校を卒業後、埼玉県内などで保育園に勤務。退職後、外国語指導助手をしていたアメリカ出身の男性と結婚し、アメリカなどで生活。自然が豊かな場所で子育てをしようとして2018年に鮭川村に移住し、絵本作りを本格的に開始。夫と子ども2人との4人暮らし。

HISTORY

これまでの歩み

23歳

勤務していた保育園を退職、自転車で群馬から沖縄まで旅する

25歳

アメリカ出身の男性と結婚し、3年後にアメリカで長男を出産

30歳

家族で鮭川村に移住

31歳

次男を出産、絵本作りを本格的に始める

Q. どのような経緯で絵本作家に?

A. 絵を描くことがずっと好きでした。保育園を退職した後、群馬県から沖縄県まで自転車で旅をした時に似顔絵などを描いて売ることを経験し、こういう生き方もあるかもしれないと思いました。鮭川村に移住した後、次男を出産したばかりで仕事ができない時期に絵本を制作し、出版するためにクラウドファンディングをやってみたら、資金が集まり、実現することができました。山形は季節によって変わる風景や祭りの文化などが面白くて、絵本のテーマにもなっています。



Q. 鮭川村への移住を考えたきっかけは何ですか?

A. アメリカに住んでいる時に長男が生まれ、子育てのことを考え、日本に戻ってきました。自然の中で子どもをのびのびと育てたいと思っていて、雪がたくさん降るところに住みたいという夫の希望もあり、山形県内を色々と探しました。鮭川村で、今の住宅の入居者を募集していて、さらに夫が英語指導員として働かせてもらえることになり、移住を決めました。

Q. 移住してみたの暮らしはどうか?

A. 鮭川村の豊かな自然は子どもたちの遊び場になっていて、都会では作り得ないものだと思います。また、皆さんが優しく、子どもが騒いでいても「元気がいいね」と言ってくれます。こちらに移住して絵本を本格的に作り始めてからも、皆さんが応援してくれるようなムードがあると思います。イベントなどに出ると友人がどんどん増えていきますし、山形だからこそうまくいっているのかもしれない。

Q. 今後やりたいと思っていることはありますか?

A. 子どもの主体性を大事にし、小さい子から大人まで誰でも集うことができるような場所を作りたいと考えています。新しく作りたい絵本もあるので同時進行でやっています。やりたいことだらけですね。自分がどこまでできるのか、やってみないと分からないので、何でもやってみようと思います。

＼やまがた女子にメッセージを!／

一度きりの人生、自分の「やってみたい」という思いに正直になっていいと思います。私は自然豊かな鮭川村に移住し、子育てや絵本の制作など充実した毎日を送っています。

インタビュー：大滝 美妃さん

インタビュー 『編集後記』

「Yamagata *Role model* collection」では、10名の若年女性の方々がインタビューアとなり、山形県でいきいきと暮らし、働く女性にお話をうかがいました。取材を通してインタビューアが「感じたこと」、「気づいたこと」をご紹介します。



會田 洋代さん(会社員/青森県出身)

司法書士の女性にインタビューしました。志を高く持ちながら学び、その中で柔軟に自分の進路を選択し、独立・開業している姿は本当に憧れますし、夢があるなと感じました。土業は敷居が高いイメージでしたが、お話を伺ったような女性の司法書士に相談できるのは心強いです。また、自分の可能性に蓋をせずに学んでいくことが大切であると感じました。

➔ P14



五百川 遥さん(東北芸術工科大学3年/山形市出身)

営業職の女性にインタビューしました。営業=ノルマ達成というイメージでしたが、やりがいや成長を感じる非常に良いお仕事というイメージに変わりました。「マイナスに考えても仕方ないから、自分の得意なこと、良いところを活かして頑張る」という考え方も素敵だと思いました。

➔ P18

お客様や学生など多くの方々と関わるお仕事の女性にインタビューし、コミュニケーションについて「話すことが全てではなく、聞くことも重要」とお聞きし、苦手意識が少なくなりました。また、「学生時代に資格取得をしておけば良かった」とおっしゃっていたので、私も学生のうちにできるだけ取りたいと思います。

➔ P23



大滝 美妃さん(会社員/宮城県出身)

移住し絵本作家として活躍する女性を取材しました。お子さんに自然の中で主体的にのびのびと成長してほしい、そのために必要な環境を自分で作っていく、とてもバイタリティーあふれる素敵な女性でした。お話をしていると、こちらまでワクワクして楽しい気持ちになり、仕事も育児も楽しんでいる様子が伝わってきました。仕事や住む場所を変えることにも前向きで、「やってみたい」と思ったことに素直に生きる、そんなお話を聞いて、私も自分の心に従ってみたいと思いました。

➔ P27



開田 真由さん(山形大学3年/秋田県出身)

お花のお仕事をする女性を取材し、「好き」や「すごい」といった純粹な感情を軸に目標までの道筋を考えてキャリアを選択しているところが印象に残りました。また、社会人になりたてで仕事に集中したい時期だからこそ、地元という安心感・親しみのある場で働くことは大きな後ろ盾となっていると感じました。

➔ P13

農業に従事する女性へのインタビューでは、「髪をピンクにしたい、ネイルもしたい」という、やりたいことを実現できる仕事を考えるのも一つの道だと感じました。農業をする女性のコミュニティがあるというお話もあり、農業に興味はあるものの、仕事としてのイメージができない若者にとって、コミュニティがあることによる入りやすさは重要だと思いました。

➔ P11



佐竹 美咲さん(東北芸術工科大学3年/山形市出身)

子どもたちと関わるお仕事をしている女性への取材では、育児を理由に仕事を辞めることは考えなかったと力強く語っていたことが心に響きました。

➔ P12

品質管理の業務に従事しながらキャリアアップした女性のお話では、ライフイベントの予期せぬ変化に柔軟に適応し、納得感をもって生きる姿が印象的でした。

➔ P17

商品開発に取り組む女性にインタビューしました。仕事を頑張ることができるのは同期入社の子どもの存在も大きいことや、仕事のオンとオフのスイッチを上手に切り替えて、ほっとする環境づくりをしていることが印象的でした。

➔ P19





佐藤 悠里さん (山形大学3年/福島県出身)

建設業の現場の施工管理に従事する女性にインタビューしました。働くママとして活躍なさる背景に2つの要因があると感じました。1つ目は「共有すること」。どんな場面でも情報を共有し、コミュニケーションを怠らない姿勢が周りとの信頼関係を生んでいるのだと思いました。2つ目は「子育て支援の整った環境」です。時短勤務や育休制度などで支援する会社、出産祝い金や子どもの医療費の無料化などの支援を行う行政、さらには何かあった時に頼ることが出来る実家と、女性の活躍を応援する環境が融合していると思いました。

➔ P10



田中 千波さん (教員/山辺町出身)

移住して起業した女性をインタビューしました。自分のワクワクを大事にして「まずはやってみよう」という姿勢がいきいきとしていて素敵だなと思いました。また、休日に思い切りリフレッシュすることで、仕事のアイデアが浮かんでくるという話が興味深かったです。私は、休んでいても頭の中は仕事でいっぱいのが多かったので、オンとオフをしっかりと切り替えて、自分が楽しむ中から仕事のヒントを見つけていきたいと思いました。

➔ P24



原田 麻衣さん (山形大学3年/宮城県出身)

取締役を務める女性への取材は緊張しましたが、従業員への愛があふれている方でした。特に「従業員のことが大好きで、誕生日も覚えている」と聞いた時は私の中の「人の上に立つ人」のイメージが崩れていった気がしました。また、「女性活躍という言葉があまり好きではない」とのお考えについて、人は多面的だとお話しされていた姿が胸に響きました。

➔ P20

文系出身で、海外とつながる製造業の企業に勤務する女性へのインタビューでは、「視野を広げる」ことの重要性をひしひしと感じ、就職活動で業界を絞り込み過ぎるのも良くないと感じました。意外なところで活躍できる場所があるのかもしれないので、「少しでも興味がある」と思ったことには臆せず飛び込んでみようと思いました。

➔ P22



丸谷 芽生さん (ナレーター/酒田市出身)

日本料理人の女性を取材しました。子育てを楽しみながら技能五輪という目標に向かって働く姿がカッコよくて印象的でした。「将来的には山形で指導する立場に」というビジョンをお持ちの点もバイタリティを感じました。私もこんなふうにはイキイキと働きたいです。

➔ P21

東京から移住後も夢を持って活動している女性への取材では、宇宙への熱い気持ちや好奇心が伝わってきました。インタビューの際、地元の方々とお話しされていて印象的でした。子育ても含め、いろいろなことに前向きな姿もとても素敵でした。

➔ P16

お仕事と大学院での学びを両立している女性のお話では、自分のやりたいことにストイックに向き合っている姿が印象的でした。「誰かのために」を原動力にお仕事されているのが伝わってきて素敵だなと感じました。

➔ P26



山田 望未さん (東北芸術工科大学3年/宮城県出身)

スポーツインストラクターの女性を取材しました。自分の仕事に誇りを持って取り組まれていて、充実している印象を受けました。また、地元で働くことで、お世話になった人などに恩返しができることのお話は、地元で働くことの魅力に気付かされました。私も人との関わりや周りの環境なども重視して職業選択をしていきたいと感じました。

➔ P25

大学で学んだデザインのスキルを活かしてお仕事をする女性を取材し、山形の農業を盛り上げたいという気持ちが伝わってきました。普段から農家さんとの関わりがあるからこそできる唯一無二のデザイナーだと思います。私も、地域活性化のために自分自身の得意なことを活かせる職に就きたいと考えさせられました。

➔ P15



山形での仕事と暮らし
ロールモデル集

Yamagata
Role model
collection